



第56期中間事業報告書

平成13年4月1日から平成13年9月30日まで



DAITO CHEMIX

本紙は再生紙を使用しております。

ダイトケミックス株式会社

企業理念

わたしたちは

「快適でより豊かな社会づくり」

を合言葉に

「一歩先をゆく、スペシャリティ・
ファインケミカルメーカー」

をめざします。

そのために

「グッドマインド」

「グッドパートナー」

「グッドテクノ」

を大切にしてください。

株主の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は、あたたかいご支援をいただきまして、厚くお礼申し上げます。

ここに当社の第56期中間期（平成13年4月1日から平成13年9月30日まで）の決算を終了いたしましたので、事業の概要をご報告申し上げます。

当中間期のわが国経済は低調に推移し、米国経済の景気停滞感の影響も加わる厳しい経営環境が続き、損失計上のやむなきにいたりました。このため、当中間配当金につきましては、誠に遺憾ながら減配とさせていただきます。

厳しい経営環境に対し、新製品開発強化やコストダウンを強力に進め、業績回復に取り組む所存でございます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長

柴田美治

平成13年12月

営業の概況

当中間期のが国経済は、個人消費の低迷に加え、民間設備投資も減少し、低調に推移いたしました。海外におきましては、米国経済は景気刺激の金融・財政政策にもかかわらず企業の設備投資に底入れ感がなく、減税の個人消費に対する効果も不透明で景気停滞感が強くなりました。欧州経済もユーロ圏を中心に一段と減速感が強まり、また、アジア諸国の経済も減速傾向が鮮明となりました。

このような状況の中で当社は、営業活動に全力をあげるとともに、感光性材料・写真材料・医薬中間体の新製品開発に積極的に取り組みました。また、製造原価の引き下げ、設備投資の削減、経費の削減、購入原料の価格値下げなどに鋭意努力いたしました。IT不況による感光性材料の販売数量の減少、染料をはじめとする化成品の価格下落により、売上高は大幅に減少いたしました。

この結果、当中間期の売上高は、写真材料・医薬中間体がおおむね順調に推移したものの、感光性材料・その他化成品の売上減少が大きく、前年同期比29.8%減の55億58百万円となりました。

利益につきましては、売上高が大幅に減少しましたため、原料価格低下、総労務費の削減など経費の削減に組みましたが、経常損失は49百万円（前年同期、経常利益427百万円）となりました。また、中間損失は31百万円（前年同期、中間利益242百万円）となりました。

なお、環境対応として、大阪工場（平成11年11月取得）に続き、本年9月静岡工場でISO14001の認証を取得いたしました。また、福井工場でも本年度中に取得するための活動を継続いたしております。

品目別の状況は次のとおりであります。

[感光性材料及び印刷材料]

半導体用感光性材料は、デバイスメーカー、レジストメーカーの生産減少、在庫調整などIT不況の影響をもちに被り、主力のg線・i線対応用感光性材料の売上が大幅に減少いたしました。

エキシマ対応用感光性材料は、新製品開発を積極的に行ったものの、主力材料の販売が拡大できず、大幅に減少いたしました。

液晶用感光性材料は、液晶ディスプレイ、その他情報端末の伸びにより販売数量は増加いたしました。価格低下の影響で売上は横這いに推移いたしました。

印刷材料分野につきましても、印刷物の減少の影響や、価格低下の影響を受け大幅に減少いたしました。

この結果、当品目の売上高は、前年同期比53.3%減の17億63百万円となりました。

[写真材料及び記録材料]

写真材料は、新製品や汎用品の販売拡大に注力し、インスタント写真向け材料や新現像方式向け製品が増加したものの、スポット的な輸出が減少したため、売上は僅かながら減少いたしました。

記録材料は、ジアゾ感熱タイプの感光材の増加があったものの、ジアゾ感光紙が大きく減少したため、販売数量、売上ともに減少いたしました。

この結果、当品目の売上高は、前年同期比3.4%減の23億28百万円となりました。

[医薬中間体]

医薬中間体は、主力製品が引き続き好調であったことや開発品の増加により、売上は順調に増加いたしました。

この結果、当品目の売上高は、前年同期比12.0%増の8億49百万円となりました。

[その他化成品]

染料は、染色加工業の海外移転や繊維加工品の輸入増および競合品との価格競争のため、国内は引き続き低調に推移いたしました。輸出も、アジア市場の回復は見られたものの、価格競争が引き続き厳しく低調に推移いたしました。

架橋剤は、IT不況の影響および輸出価格の低下で、売上は大幅に減少いたしました。

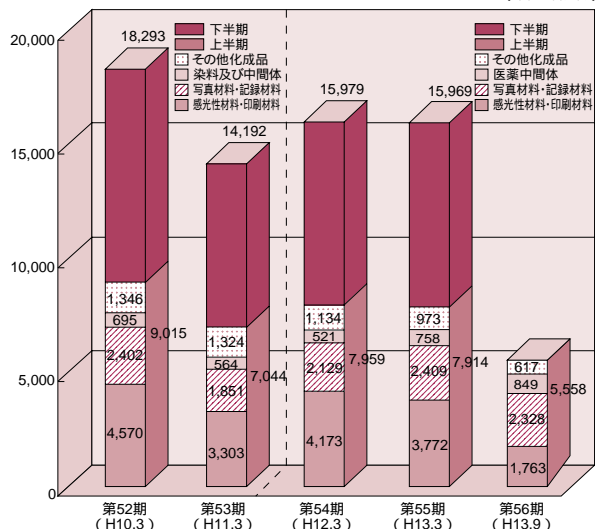
その他一般化成品は、IT関連品目を始め大幅に減少いたしました。

この結果、当品目の売上高は、前年同期比36.5%減の17億17百万円となりました。

業績の推移と主な経営指標

品目別売上高

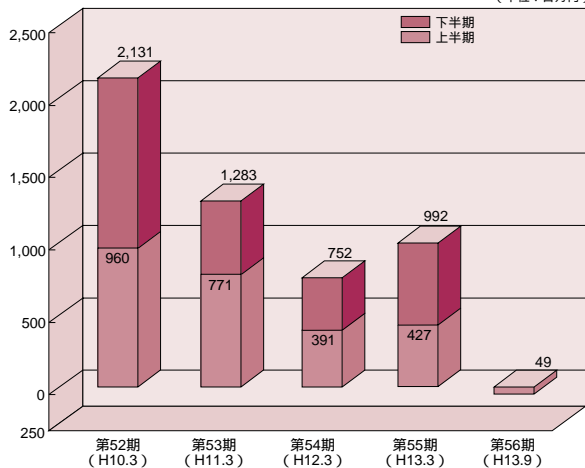
(単位: 百万円)



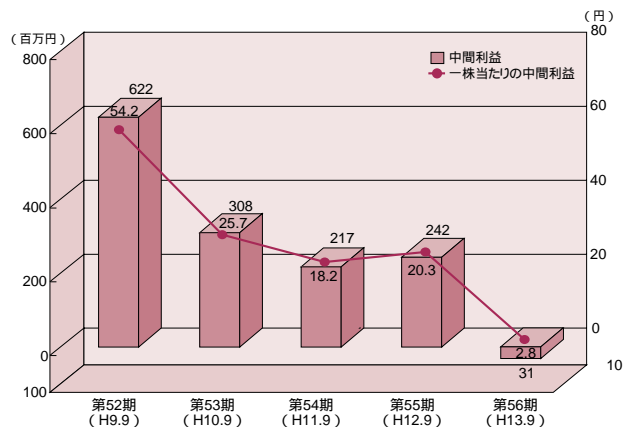
(注) 54期から品目区分を変更し、「その他化成品」に含めていた医薬中間体を独立品目とし、「染料及び中間体」を「その他化成品」に含めることといたしました。

経常利益

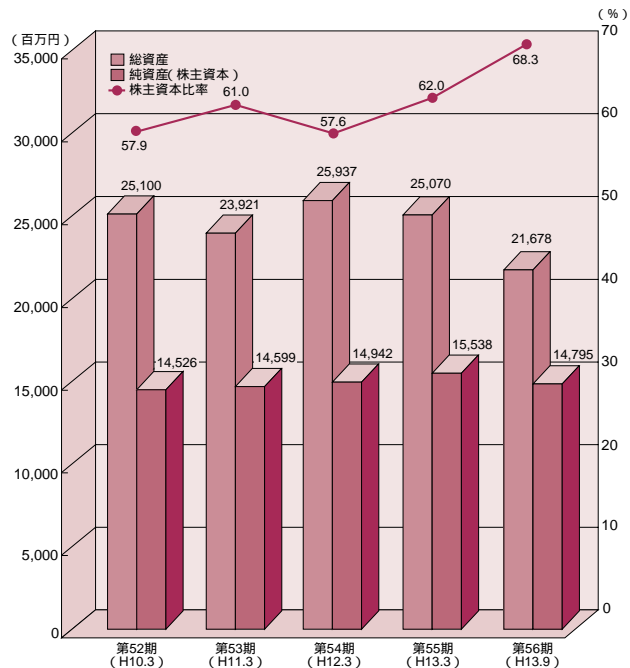
(単位: 百万円)



中間利益・一株当たりの中間利益



総資産・純資産・株主資本比率



中間貸借対照表

(単位：百万円)

科目	期別	前中間期	当中間期	前期
		平成12年9月30日現在	平成13年9月30日現在	平成13年3月31日現在
(資産の部)		(24,988)	(21,678)	(25,070)
流動資産		12,070	9,042	12,317
現金及び預金		1,636	1,574	2,338
受取手形		1,169	868	974
売掛金		2,252	1,319	1,501
有価証券		3,505	1,365	3,763
たな卸資産		3,253	3,685	3,483
その他		253	230	255
固定資産		12,917	12,635	12,752
有形固定資産		10,638	11,303	10,686
建物		3,078	2,926	2,929
機械及び装置		3,718	3,560	3,428
土地		2,423	2,429	2,423
その他		1,417	2,387	1,905
無形固定資産		67	60	71
投資等		2,211	1,271	1,994
資産合計		24,988	21,678	25,070
(負債の部)		(9,581)	(6,882)	(9,532)
流動負債		6,360	4,056	6,734
支払手形		193	-	18
買掛金		1,104	595	1,242
短期借入金		3,819	1,493	3,809
賞与引当金		413	227	400
その他		828	1,740	1,264
固定負債		3,221	2,826	2,797
長期借入金		1,865	2,071	1,735
退職給付引当金		1,172	533	859
その他		183	221	203
(資本の部)		(15,406)	(14,795)	(15,538)
資本金		2,901	2,901	2,901
法定準備金		4,645	4,666	4,654
その他の剰余金		7,530	7,573	7,728
(うち中間当期利益(損失))		(242)	(31)	(541)
その他有価証券評価差額金		329	159	253
自己株式		-	505	-
負債・資本合計		24,988	21,678	25,070

中間損益計算書

(単位：百万円)

科目	期別	前中間期	当中間期	前期
		自平成12年4月1日 至平成12年9月30日	自平成13年4月1日 至平成13年9月30日	自平成12年4月1日 至平成13年3月31日
(経常損益の部)				
営業損益の部				
売上高		7,914	5,558	15,969
売上原価		6,525	4,779	13,013
売上総利益		1,388	779	2,955
販売費及び一般管理費		942	825	1,885
営業利益(損失)		445	46	1,069
営業外損益の部				
営業外収益		78	74	143
営業外費用		96	78	220
経常利益(損失)		427	49	992
(特別損益の部)				
特別利益		59	2	62
特別損失		62	5	102
税引前中間(当期)利益(損失)		424	52	953
法人税、住民税及び事業税		7	8	55
法人税等調整額		174	28	356
中間当期利益(損失)		242	31	541
前期繰越利益		287	295	287
中間配当額		-	-	91
中間配当に伴う利益準備金積立額		-	-	9
中間当期末処分利益		529	263	728

貸借対照表 注記

- 記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。
- 有形固定資産の減価償却累計額 18,265百万円
- 担保に供している資産
有形固定資産 1,694百万円
投資有価証券 29百万円
- 保証債務残高 2百万円
- 1株当たり中間損失 2円81銭

従来、流動資産の「その他」及び固定資産の「投資等」に含めておりました「自己株式」は、当中間期から資本に対する控除項目として資本の部の末尾に記載しております。

損益計算書 注記

記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

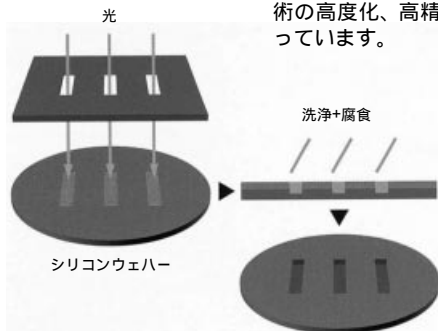
製品紹介

感光性材料及び印刷材料

半導体製造工程の超微細加工の段階において用いられるのが感光性樹脂です。その感光性樹脂の製造に不可欠な材料として当社の製品が使われており、シリコンウェハーに投影される設計図のパターン映像（光）に反応し、電流が流れる溝を掘る役割をしています。

現在、半導体の高集積化が加速するなかで、汎用IC向け感光性材料の量産設備に引き続き、最新の高速メモリ、システムLSIや高速CPU向けの次世代用感光性材料の開発と量産体制整備に取り組んでいます。

また、感光性材料は印刷物の原版製作プロセスにも使用され、印刷技術の高度化、高精度化の牽引力になっています。



感光性樹脂はマスク設計図を通過した光に反応し、溶けやすく変化する。この部分を洗い流すことによりシリコンウェハーに電子回路の溝ができていく。

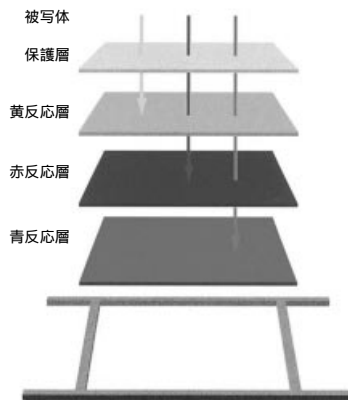
医薬中間体

医薬分野は、感光性材料・写真材料に次ぐ第3の事業の柱として、積極的に育成しています。

昨年3月、静岡工場にて医薬品製造許可を取得し、医薬中間体から原薬（パルク）までの生産体制を確立いたしました。また、本年9月福井工場に医薬試作工場が完成いたしました。現在、国内外の大手有力医薬メーカーとの取引拡大を進めており、強力な事業展開を図っています。



写真材料



カラーフィルムの感光層は最低3層、実際は高性能化のために補助層を含めて10層以上塗布されている。1層の厚みは、1-2ミクロンである。

写真のカラーフィルムにはフィルムベースの上に、光に感応し色を再現するための何層もの薬品が塗布されています。大きく分けると、黄、赤、青の3原色に感光する3層。当社の技術が生かされている高性能の写真材料も、この感光層に含まれています。

この製造技術は、インスタント写真やデジタルカラープリンターの材料にも活かされています。

また現在、高性能・環境保護への対応として、新タイプである分散型写真材料の量産化技術を導入し、販売に寄与しています。

染料

当社の今日の基礎を築いたのは、合成染料を中心とする染料の製造技術です。特に、ポリエステル用の黒色染料は国内トップレベルにあり、光源の種類や角度によって微妙に変化する“黒”の製造に必要な高度の技術を持っています。

最近、開発しました分散染料「スーパーブラックシリーズ」は、高級フォーマル向けとして、高いカラーバリューを誇っております。



トピックス

静岡工場でISO14001認証取得

当社は、事業の展開にあたっては、環境保護を基本に置き、使用資源の削減、回収、再資源化に全社をあげて積極的に取り組んでおります。

一昨年の大阪工場に続き、静岡工場においても本年9月にISO14001の認証を取得いたしました。福井工場におきましても、本年度中に取得すべく活動を継続いたしております。

認証内容

<対象範囲> フォトレジスト材料、写真用化学薬品および医薬中間体の製造

<認証機関> (財)日本品質保証機構(JQA)

<登録日> 2001年9月21日



コミットメントライン契約締結

当社は、9月28日資金調達の機動性確保ならびに資産効率の向上を目的として、三井住友銀行との間で、20億円のコミットメントライン契約(特定融資枠契約)を締結いたしました。

TCD推進本部およびQA・RC推進部の設置

TCD推進本部の新設(平成13年9月11日)

国際競争に対応するコストの実現に向けて、強力に取り組んでいくために、TCD(トータルコストダウン)推進本部を設置いたしました。

QA・RC推進部の新設(平成13年10月1日)

全社の環境・安全・品質活動を統括し、全社的な方針・計画、対外的対応、社内監査機能を充実していくために、QA・RC推進部を設置いたしました。

会社の概況

(平成13年9月30日現在)

商号	ダイトケミックス株式会社 (英文名: Daito Chemix Corporation)
本社所在地	大阪市福島区福島七丁目15番26号
設立	昭和24年12月2日
資本金	2,901,163,150円
社員数	314名
主な営業品目	感光性材料、写真材料、医薬中間体、印刷材料、記録材料、染料及び中間体、その他化成品
事業所	東京営業所 東京都中央区日本橋人形町二丁目15番1号 大阪工場 大阪府大東市諸福八丁目3番11号 大阪市鶴見区茨田大宮三丁目1番7号 静岡工場 静岡県小笠郡大東町浜野3110 福井工場 福井県福井市石橋町31字118



大阪工場



静岡工場



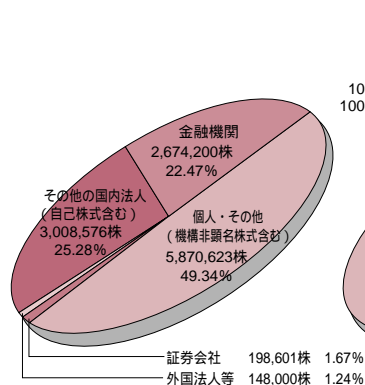
福井工場

役員

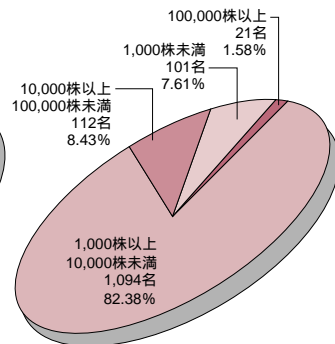
(平成13年9月30日現在)

代表取締役会長	西谷俊平	谷田俊平	俊平
代表取締役社長	柴田美	田美	美
常務取締役	村瀬千	瀬千	千
常務取締役	清水保	水保	保
取締役	清内光	内光	光
取締役	内安田	安田	田
取締役	安入岡	入岡	岡
取締役	小宮修	小宮修	修
取締役	小村田	小村田	田
常勤監査役	山智	山智	智
監査役	越中	越中	中
監査役	桑原	桑原	原

所有者別 株式分布状況



所有株数別 株主分布状況



株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会開催時期	6月
株主確定日	
定時株主総会	3月31日
利益配当金	3月31日
中間配当金	9月30日
(そのほか必要があるときは、あらかじめ公告いたします。)	
公告掲載新聞	日本経済新聞
名義書換代理人	東京都千代田区丸の内一丁目5番1号 東京証券代行株式会社
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜三丁目5番29号 東京証券代行株式会社 大阪営業所
同取次場所	東京証券代行株式会社 本店および 全国各取次所

【お知らせ】

平成13年10月1日施行の商法改正により単位株制度が廃止され、新たに単元株制度が創設されました。当社も施行日より当社の1単位であった1,000株を1単元として単元株制度に移行しておりますが、株主様は1単元につき1個の議決権を有し、1株から999株までの株式につきましては、単元未満株式として従来どおり買取請求をすることができます。

なお、今般の商法改正に伴い、額面株式も廃止されましたが、お手元の額面金額の記載がある株券は、株券としての効力に何ら変わりはなく、そのまま流通されます。

株式の状況

(平成13年9月30日現在)

会社が発行する株式の総数	47,900,000株
発行済株式の総数	11,900,000株
株主数	1,328名
大株主	

株主名	所有株式数	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合
ダイソーケミックス社員持株会	601 千株	5.06 %
株式会社三井住友銀行	595	5.00
東京応化工業株式会社	522	4.39
住友商事株式会社	503	4.23
日本生命保険相互会社	499	4.20
株式会社新生銀行	482	4.05
竹中一雄	475	4.00
富士写真フイルム株式会社	439	3.69
住友生命保険相互会社	368	3.09
農林中央金庫	247	2.08

(注) ストックオプション制度のために取得した自己株式(510千株持株比率4.29%)は含まれておりません。